

巻頭言

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学学術・社会連携部博物館事務室 公開日: 2015-10-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 風間, 信隆 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/17625

＜巻頭言＞

博物館長 風間 信隆
(明治大学商学部教授)

大学博物館は、大学と一般社会をつなぐ窓口として、大学での教育・研究の成果を広く社会に発信することを使命としておりますが、現在、明治大学博物館は、そのミッションとして、1：収蔵資料の管理と教育・研究機能の拡充、2：学内共同利用機関としての機能拡充、3：社会貢献・社会連携の拡充を掲げ、明治大学における「知の社会発信」、すなわち明治大学の研究と教育の社会へのリエゾン機能を強化することを目指しております。当館が全国の私立大学博物館の中でも特に高い評価を受けておりますのは、法人・教学一体となった全面的なご理解とご支援、さらには450名を超える「博物館友の会」の皆様の多大なご協力に支えられていると同時に、当館の歴史の中で蓄積されてきた、30万点を超える収蔵資史料と明治大学が有する充実した研究資源・研究成果の豊富さに拠るものと考えております。これからも博物館はその使命を自覚し、明治大学の社会的発信力の一翼を担う役割を強化していかねばなりません。

さて2014年度において当館の特筆すべき展示活動としては、2014年10月11日から12月11日に開催された特別展「藩領と江戸藩邸～内藤家文書の描く岩城平・延岡・江戸～」をあげることができます。今回の特別展は、江戸時代の内藤藩と近代の内藤家の歴史を書き留めた、約5万点に及ぶ「内藤家文書」が明治大学に移管されて半世紀という一つの節目を迎えることから企画され、開館期間中には約4千名の来館者をお迎えすることができました。今回の特別展では、内藤家文書をひもといて、藩領と江戸藩邸を基点に広がる江戸時代の藩を描き、また、各時代、各領地をつないだ内藤家文書のあり様や、廃藩置県後の内藤家文書の行方など、磐城平から始まって、明治大学に譲渡されるまでの内藤家文書の歩みを辿り、内藤家文書の歴史的価値に光を当てることができました。今回の展示に当たっては、いわき市教育委員会と延岡市教育委員会から貴重な資料の貸し出し等でご協力・ご支援をいただきました。ここに記して心より感謝申し上げます。

またアカデミーコモンに移設・統合された新博物館の開館10周年を記念した特別企画展として「明大博物館クロニクル」を2014年5月3日から6月22日まで開催いたしました。明治大学新博物館は旧3館（刑事博物館・考古学博物館・商品博物館）を統合して2004年にリニューアル・オープンしました。しかし、その財産はこれまでの歴史の中で収集・研究されてきた豊富なコレクションにあります。今回の特別企画展では、旧3博物館の成立から今日に至る歩みの中でコレクション形成の経緯を検証し、常設展示室では公開されていない資料を数多く出展し、開館期間中に4,500名に上る来館者をお迎えしました。

さらに大船渡市と明治大学が結んだ震災復興支援の協定に基づき、大船渡市博物館の活動支援の一環として大船渡市立博物館において7月26日から8月31日まで「明治大学コレクションの世界」と題する展覧会を行い、大船渡市の多くの市民の方々に明治大学の研究資源の豊富さに触れていただく機会となりました。またこの開催期間中には、当博物館学芸員による2回にわたる「成人大学講座（明治大学博物館市民レクチャー）」と「夏休み子ども大学（出張！子供はにわ教室）」も開催されました。また東日本大震災復興支援事業の一環として、明治大学震災復興支援センターとの共催による展覧会「失われた街が語りかけるもの～リアス・アーク美術館 東日本大震災と津波の記録～」を2015年2月23日から3月26日にかけて開催いたしました。リアス・アーク美術館では、2011年3月11日に発生した震災と津波による被害

を地域の重要な歴史・文化的記憶として後世に伝えるため学芸員が中心となって災害被害の実態記録・調査が行われましたが、その同館の常設展「東日本大震災の記録と津波の災害史」から貴重な記録資料をご出展頂きました。

さて、明治大学文学部史学地理学科考古学専攻第41期卒業生の故大久保忠和氏の遺志を生かすため、ご遺族から寄せられた指定寄付金をもとに「大久保忠和考古学振興基金」が設置され、十数年にわたって、考古学の振興および博物館の発展に資する、優れた調査・研究に資金助成を行ってまいりました。2014年度をもって本基金の奨励研究募集は終了し、最後となる奨励研究の授与式が2014年4月15日に忠和氏のご父母である大久保ご夫妻をお招きして開催されました。

当館は2012年度から「どこでもいつでも見学できる」ICTミュージアム構想の実現を目指し、その第一歩として明治大学ユビキタス教育推進本部のご支援の下で特別展のデジタル・アーカイブ化を図ってまいりました。今年度は特別展「藩領と江戸藩邸～内藤家文書の描く岩城平・延岡・江戸～」と新博物館開館10周年特別企画「明大博物館クロニクルー過去・現在・そして、未来ー」の映像デジタル・コンテンツを製作し、当館ホームページでストリーミング公開を致しました。今後、常設展示のコンテンツを含め、このアーカイブを充実させ、当博物館の社会発信力の充実・強化を図っていきます。

明治大学博物館は、そのミッションを明確化し、その使命を果たすために博物館の諸活動を絶えず点検・見直し、改革を進めていくことが博物館という組織の効率性 (efficiency) と効果性 (effectiveness) の向上のために必要不可欠です。その際、博物館も、明治大学という全学的観点から、当館が果たす役割を見つめ直す、という全体最適化志向が不可欠です。そうした観点から大学の発展のために博物館はいかなる役割を果たすべきか、また果たしうるのかを引き続き検討してまいります。そのためにも博物館内部の議論と検討だけではなく、学内の関係各位・諸機関との積極的な「対話」(dialogue) と「共有される価値の創造」(Creating Shared Value) が不可欠であると考えております。

